

令和5年度 紀の川市全国学力・学習状況調査結果概要



実施目的

1. 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図る。
2. 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的に検証改善を繰り返すことで教育指導や学習状況の向上を図る。

実施日 学校数 児童生徒数

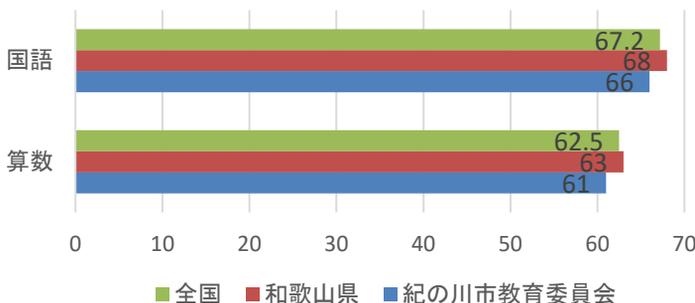
令和5年4月18日(火)

紀の川市内小学校15校 6年生 児童459名

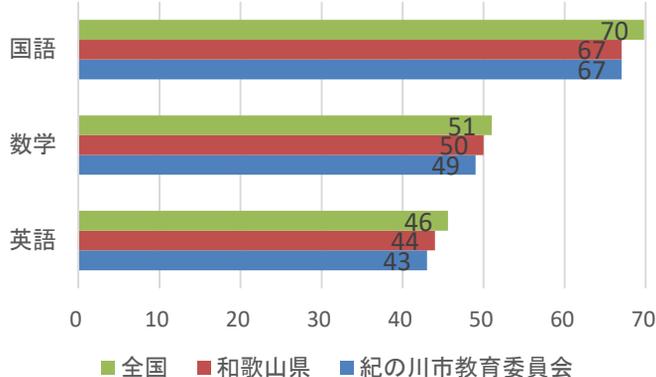
紀の川市内中学校5校 3年生 生徒395名

教科別調査結果概要

小学校正答率(%)



中学校正答率(%)



【小学校国語解説】

「話すこと・聞くこと」の問題で、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる記述式問題が全国平均を上回っている。「書くこと」の問題で、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、「読むこと」の問題で、複数の資料を読んで理解したことを関連付けて自分の考えをまとめる記述式問題が全国平均を下回っている。同じ記述式問題でも、自分の考えをまとめる際、伝え方を工夫することや、必要な情報を関連づける等の思考の過程が増える問題ほど、正答率が下がっていることが明らかになった。

【小学校算数解説】

「データの活用」の領域で、示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉や数を用いて記述する問題で全国平均を上回っている。「変化と関係」の領域で、伴って変わる二つの数量について、変化の特徴を読み取ること、比例の関係ではないことを説明した文の空欄に入る適切な数字を選ぶことはできているが、百分率で表された割合についての理解を問う基本的な問題が全国平均を下回っている。また、「数と計算」の領域で、筆算の方法を説明した図を基に各段階の商の意味を考える選択問題においても、全国平均を下回っている。基本的な学習内容を定着させる必要がある。

【中学校国語解説】

「書くこと」の内容で、読み手の立場になって、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかを問う選択式問題が全国平均を大きく下回った。「話すこと・聞くこと」の内容で、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかを問う問題も選択式問題であったが、全国平均を下回った。「読むこと」の内容での記述式問題においても、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに、課題があることが分かった。文章理解において、自分の持っている知識や経験と結びつけて具体化していくことが必要である。

【中学校数学解説】

自然数の意味や、数と整式の乗法の計算など「数と式」の領域の問題では全国平均を上回った。「図形」の領域では、空間における平面が同一線上にない3点で決定されることへの理解に課題があり、「関数」の領域では、与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取ることや、事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することに課題がある。数、式、グラフのどれをどのように用いたかについて数学的に説明できる活動を充実することが必要である。

【中学校英語解説】

「書くこと」の領域では、未来表現の肯定文、疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去の疑問文、依頼する文を書くことが全国平均を少し上回っている。「聞くこと」の領域では、情報を正確に聞き取ることも全国と同等にできている。「読むこと」の領域では、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報、文と文の関係、短い文章の概要を読み取る選択式の問題で全国平均を大きく下回った。

(話すこと) 社会的な話題について聞き、自分の考えとその理由を話すことに課題がある。聞いたことを理解したが、自分の考えとその理由を話すために必要な単語や表現が身につけられていなかったことが考えられる。

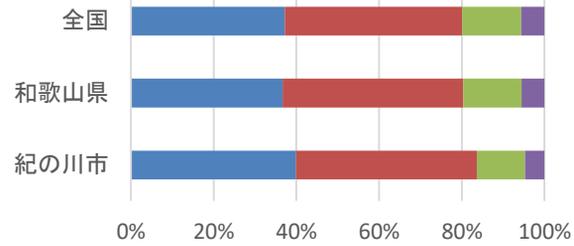
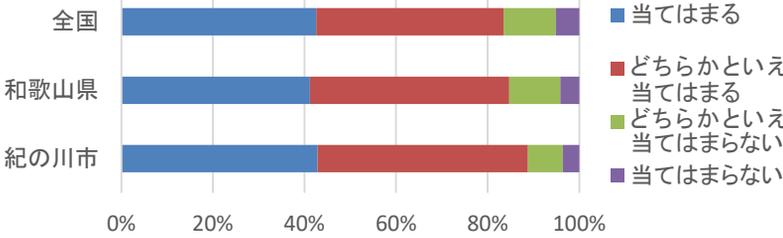
児童生徒質問紙調査結果概要

※全項目(小59、中72)の内、特徴的なものを一部抜粋

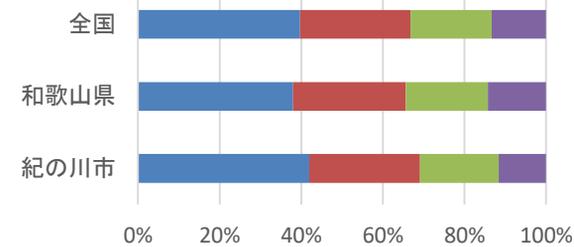
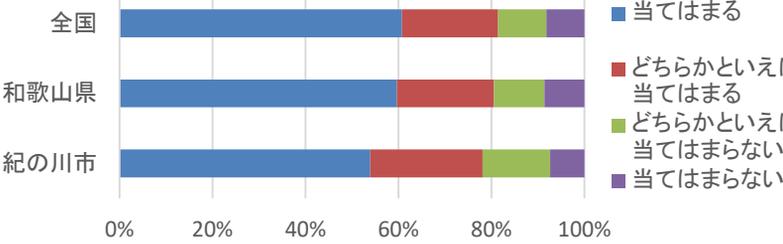
小学校

中学校

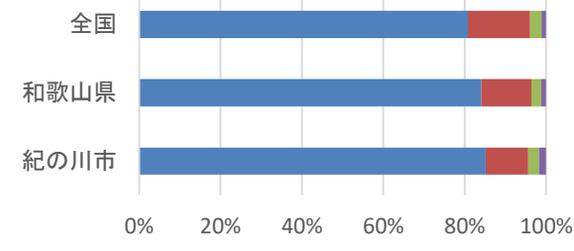
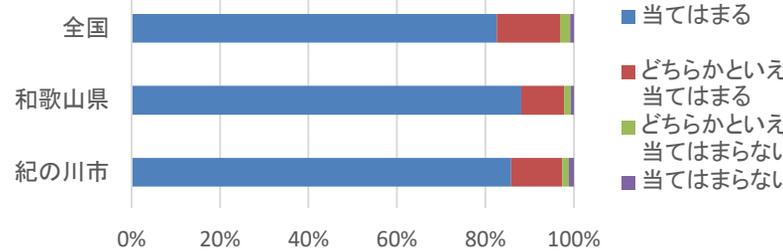
自分には、よいところがあると思いますか。



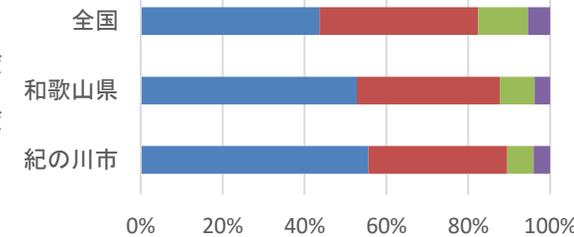
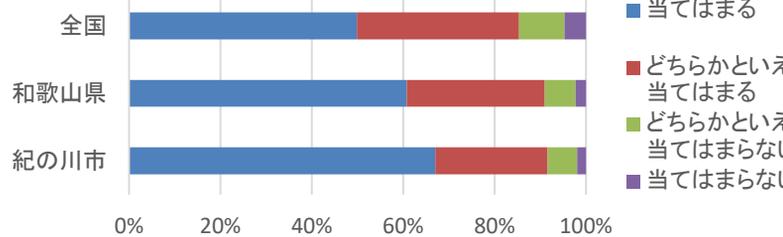
将来の夢や目標を持っていますか。



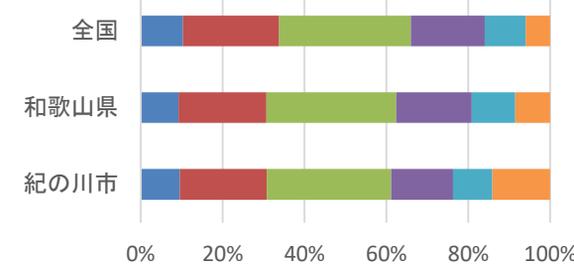
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



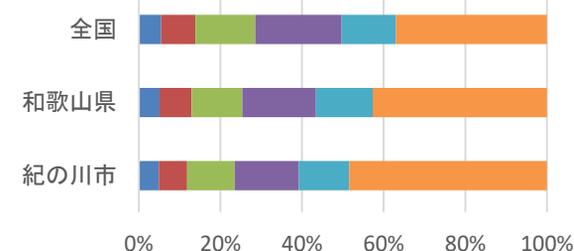
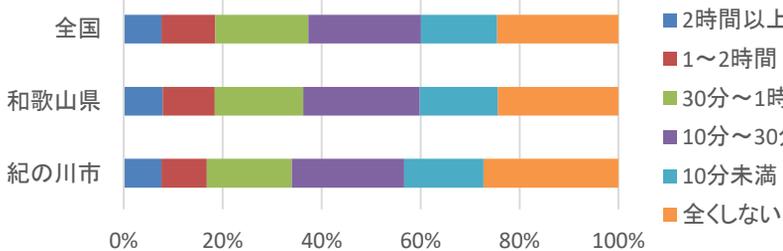
学校に行くのは楽しいと思いますか。



一日あたりの学習時間(塾等も含む)は、どれくらいですか。



一日あたりの読書時間(教科書・漫画等を除く)は、どれくらいですか。

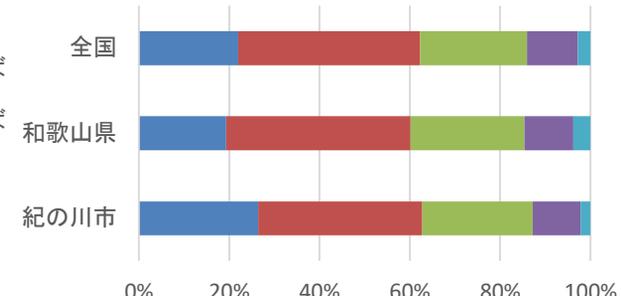
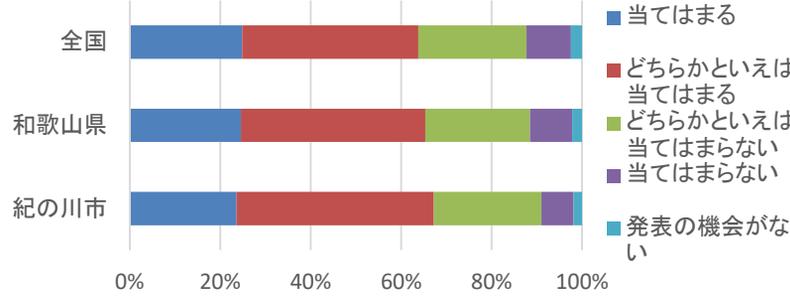


児童生徒質問紙調査結果概要 ※全項目(小59、中72)の内、特徴的なものを一部抜粋

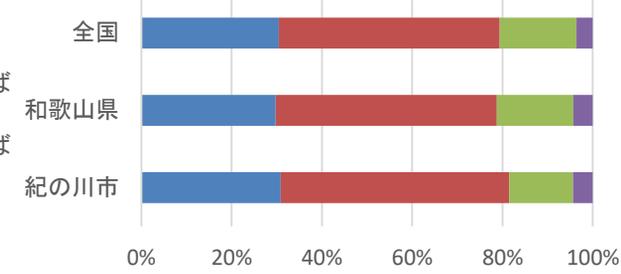
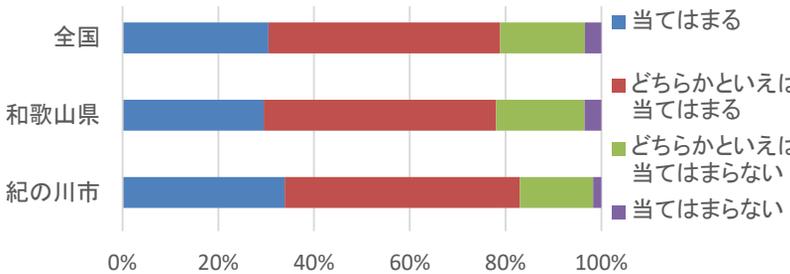
小学校

中学校

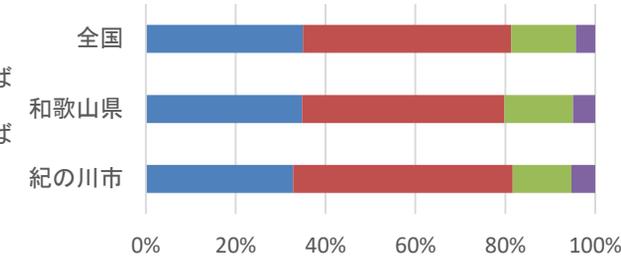
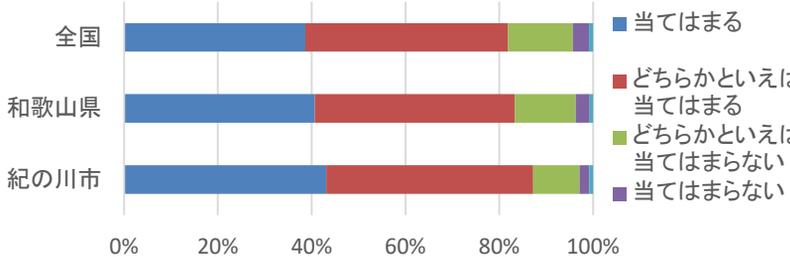
5年(中学2年)生までの授業の中で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたと思いますか。



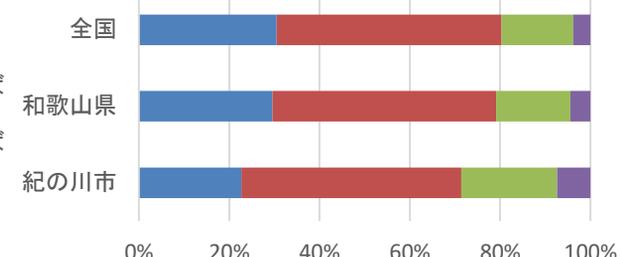
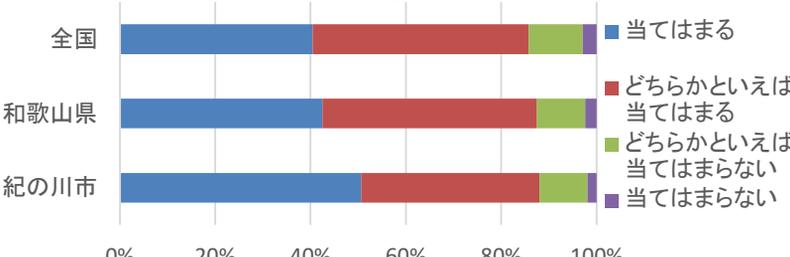
5年(中学2年)生までの授業の中で、課題解決に向けて、自分から考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



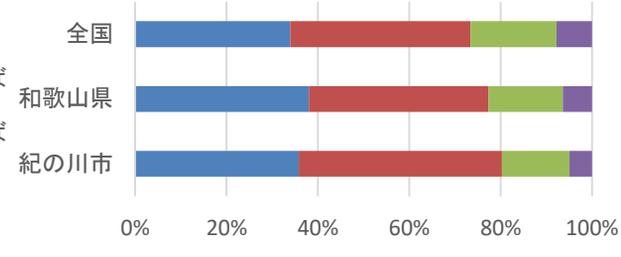
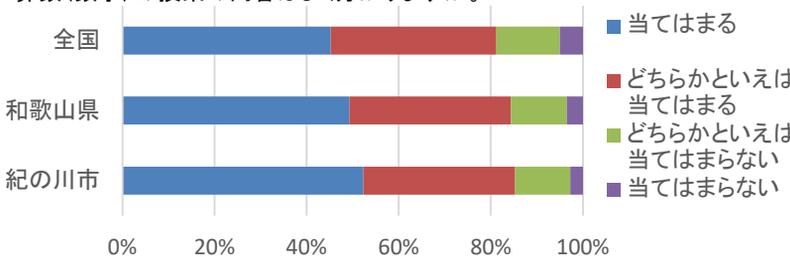
5年(中学2年)生までの授業の中で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。



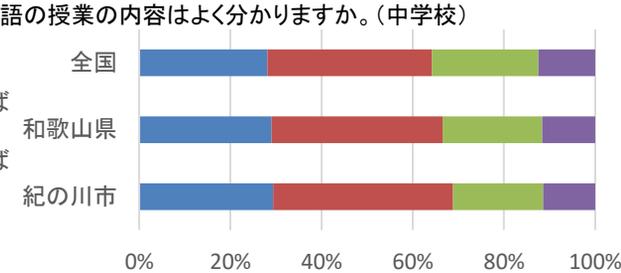
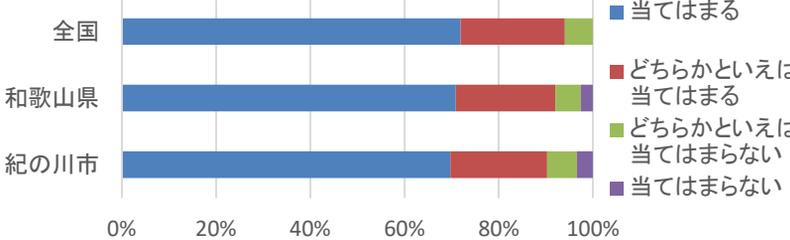
国語の授業の内容はよく分かりますか。



算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか。



英語の勉強は大切だと思いますか。(小学校)



【本市小学生の傾向】

本市の小学生は自分にはよいところがあると自己認識できる児童、学校へ楽しく通っている児童の割合が全国平均よりも高い。学習面においても各教科の授業の内容がよく分かると回答している児童の割合も高く、安定して学習に取り組んでいることがうかがえる。一方、家庭での学習や読書を全くしないと回答した児童の割合が全国平均よりも高くなっており、二極化している。

【本市中学生の傾向】

本市の中学生は将来の夢や目標を持っているという生徒の割合が全国平均よりも高い。学校へ行くのが楽しいと回答した生徒の割合も高い。学習においては、授業の内容が分かると肯定的な回答をした生徒の割合が高い教科があるものの、小学生と同様に家庭での学習や読書を全くしないと回答した児童の割合が全国平均よりも高くなっている。

概要についてのまとめ・今後の方向性

- ◇選択式や短答式問題と比べ、記述式問題は正答率が低く、無解答率が高くなることから、あらゆる教科で様々な条件に合わせて書いたり、根拠を明確にして書いたりする活動を取り入れ、「書く力」を身につけられるようにする。
- ◇データや図・表などの資料を活用した問題の正答率が低いことから、積極的に資料活用を取り入れた授業を展開し、データや図・表を読み取らせたり、それらの資料から分かること、考えられること等を言語化する力を身につけられるようにする。
- ◇読書を全くしない児童生徒の割合が多いことから、図書館の利活用をより一層推進し、教員と学校司書との連携により「読む力」を身につけられるようにする。
- ◇学習への興味・関心を高めることができる授業づくりに取り組む。全ての授業において「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の徹底を図るとともに、紀の川市学びのスタンダード（ver.2.0）を元とした各学校のスタンダードを生かし、児童生徒が分かりやすく、学習内容を定着させることができるような授業改善に取り組んでいく。
- ◇個人で考察し、仲間と話し合っって考えを深め、発表するという主体的・対話的な授業を進めている中、児童生徒質問紙において授業で課題解決や話し合い活動、発表の工夫などの取組をしていると回答した児童生徒は全国平均と同程度となってきていることから、今後も引き続き取り組んでいく。
- ◇タブレットを活用した自主学習の機会を設け、一人一人の児童生徒に適した学習課題に取り組むことができるよう、保護者との協力・連携を図って家庭学習を充実させる。



紀の川市では、調査結果を分析し、学校教育や本市の教育施策の改善、児童生徒の学力の向上等につなげるため、具体策を立てるとともに、教育委員会が保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要であると考え、本市のホームページ等を通じて結果を公表しています。

一方で、本調査によって測定できるのは、学力や生活状況の一面であることも踏まえ、教育上の効果や影響等を十分配慮し、紀の川市の将来を担い、21世紀を果敢に生き抜く人材育成のために、よりよい方策を考え取り組んでいきます。

担当課

紀の川市教育委員会教育総務課